

心療内科医のひとこと

2017年度

中野弘一 医師

~7~

「私の病気の原因は何ですか？」と私の心療内科外来に通院してくれている方から聞かれた。病気の当事者として当然の疑問だと思った。

「るなものが複合して成立していると思います」と答えた。

例えば微熱が続く病態があつて、その原因が肺に結核菌が蔓延している

要因除去では解決せず

となつている菌を死滅させることができる。すなわち微熱の原因となつている細菌を除去することができれば病気は治ることになる。従つて内科の医療では診断を重視する。治療の遂行よりも診断にエネルギーをかけているといつても過言ではない。

さてこの病因を追究することによつて治療せし

めるといつ考え方を心療内科で私が診察することになつた彼の病気に当てはめてみる。大学生だった彼が「家族とそれまでも仲良しであつたが、ある時から急に家族が疎ましく感じられ日常の些細なやり取りであつても反りが合わなく感じようになつた。それに関連して気分が不安定になり同時に持病のアレル

ギー症状が一緒に増悪するようになった」という相談であつた。「分かりました病気の重要な原因と考えられる家族に改めてもらつことにしましょう」と提案し原因の除去に向えばいいかというところ、もちろん家族との関係を薄くするといふアプローチをするわけではない。むしろ彼に対して親子関係を成立させるために障害となつていることを突き止め解決していこうとアプローチをすることになる。心療内科で治療する相談事は主要な要因を突き止め除去することでは、問題は解決に向かない。その点が病気の原因を見つげることから治療が始まる内科とはちよつと違つことが分かる。

心療内科での原因の取り扱い方や考え方はより複雑である。

(三愛病院心療内科医師 東邦大学医学部教授)

彼の病気の原因は、他の方々と似かよつているということはあるとは思つが、彼の病気の要因は唯一無二のものでそれぞれ全ての疾患で異なつていて私は思つていない。従つて本人から病気の原因を聞かれた時は「そつたなあ。きつと心療内科的な病態はいろいろ

せいであつたとする。微熱の原因は結核菌である。治療は原因である肺に巣をつくつて結核菌を殺す抗生物質を見つけて第一歩である。巣くつて細菌に有効な抗生物質を感受性試験によつて探し、最も効果の高い抗生物質を選ぶことができれば、原因



めるといつ考え方を心療内科で私が診察することになつた彼の病気に当てはめてみる。大学生だった彼が「家族とそれまでも仲良しであつたが、ある時から急に家族が疎ましく感じられ日常の些細なやり取りであつても反りが合わなく感じようになつた。それに関連して気分が不安定になり同時に持病のアレル